

## 案件概要書

2023 年 2 月 28 日

**1. 基本情報**

- (1) 国名：タンザニア連合共和国（以下、「タンザニア」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ダルエスサラーム市／ダルエスサラーム都市圏（人口 740 万人）
- (3) 案件名：ダルエスサラーム市内交差点改良計画（Intersection Improvement Project in Dar es Salaam）
- (4) 計画の要約：  
本計画は、ダルエスサラーム市内の主要交差点 2 か所を立体化することにより、市内幹線道路の交通円滑化を図り、ダルエスサラーム都市圏の経済活動の活性化及びダルエスサラーム港から国内及び隣接国への物流の円滑化に寄与することを目的とする。

**2. 計画の背景と必要性**

- (1) 本計画を実施する外交的意義

タンザニアは穏健な外交方針と安定した内政の下、国際場裡及び二国間関係で我が国と良好な協力関係を維持している。同国は、内陸国への玄関口であるダルエスサラーム港を擁し、東アフリカ地域における運輸交通上の重要な拠点であるが、ダルエスサラーム市の交通渋滞がウガンダ、コンゴ民主共和国、ルワンダ、ブルンジ等の内陸国と連結する中央回廊の物流の障害となり、社会・経済開発及び投資促進の制約要因となっている。

本計画の交差点改良によりダルエスサラーム都市圏の道路交通改善のみならず、隣接国への物流円滑化が期待され、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」における経済的繁栄の追求（連結性の強化）に資する。

我が国は、ダルエスサラーム都市交通改訂マスタープランの策定支援（2018 年）をはじめ、「キルワ道路拡幅計画」「タザラ交差点改善計画」等を通じて同市の交通機能向上に寄与してきており、本計画を実施することで同国における我が国のこれまでの ODA 事業との相乗効果が期待されることから、本計画を実施する外交的意義は大きい。

- (2) 当該国における運輸交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

タンザニアのダルエスサラーム市は経済活動の中心都市であり、人口は直近 30 年間で年平均約 5%増加し、2018 年時点で 580 万人に達しており、アフリカ大陸 6 番目の大都市である。また、ダルエスサラーム市はアフリカ東部の物流玄関口であるダルエスサラーム港を擁することから、隣接国への国際回廊の起点として重要な役割を担っている。ダルエスサラーム港の取扱貨物量は 2016～2021 年の 5 年間で 20%増加して 1,619 万トンとなっており、35%が隣接国向けである（うちコンゴ民主共和国 13%、ルワンダ 8%、ザンビア 7%等）。

ダルエスサラーム市では、人口増加及び自家用車の急速な普及、ダルエスサラーム港からの内陸向け輸送量増加により市内交通量が増加しており、ピーク時には市内中心部から 10km 圏の移動に要する時間が 1 時間を超える等、深刻な交通渋滞が問題となっている。ダルエスサラーム市の渋滞解消に向け、タンザニア政府は、JICA の支援により 2018 年に策定した「ダルエスサラーム都市交通改訂マスタープラン 2018-2040」（以下、「都市交通改訂 MP」という。）に基づき交通網の整備を進めている。都市交通改訂 MP では、交差点改良・交通管理の強化・幹線道路の整備等によって道路交通の円滑化を進めると同時に、公共交通網の整備・公共交通指向型開発（TOD）戦略に沿った都市開発等によって公共交通を中心とした都市構造への変化を進めることとしている。タンザニア政府は、短中期的に公共交通ネットワークの中心となるものとしてバス高速輸送システム（Bus Rapid Transit : BRT）フェーズ 1～7 の整備及び BRT 整備と連動した交差点改良を世界銀行、アフリカ開発銀行等の支援を受けつつ推進している。本計画による改良対象候補となる交差点（ムウェンゲ、モロッコ、ブグルニ）は、市中心部と郊外を結ぶ位置・ルートにあり、これらの交差点の改良による渋滞のボトルネック解消は市内外の交通円滑化にとって非常に重要である。なお、実際の改良対象交差点選定に際しては、上記 3 か所の交差点を対象に改めて交通調査を行い、都市交通改訂 MP 以降に生じた変化を踏まえ、改良の必要性や事業規模等の観点から優先順位を付けて 2 か所に絞り込むこととする。

### 3. 計画概要

\* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

#### (1) 計画概要

##### ① 計画内容

ア) 交差点 2 か所の改良工事（立体交差化）

イ) コンサルティング・サービス（詳細設計／入札補助／施工監理等）

② 期待される開発効果：交差点の立体化による交通の円滑化（交差点平均通過時間の短縮、通行所要時間の短縮）により、ダルエスサラーム港からタンザニア国内及び隣接国への物流の円滑化に貢献することが期待される。直接受益者はダルエスサラーム都市圏居住者 740 万人、最終受益者はタンザニア全土及びダルエスサラーム港からの貨物の 28% を占めるコンゴ民、ザンビア、ルワンダの居住者合計 1.8 億人。

③ 借入人：タンザニア連合共和国政府

④ 計画実施機関／実施体制：タンザニア道路公社（TANROADS）

⑤ 他機関との連携・役割分担：世界銀行、アフリカ開発銀行（以下、AfDB）やフランス等は、公共交通機関の拡充を通じて交通量軽減を図るべく、日本が策定支援した 2008 年の MP の提案事業である BRT1～7 号線の整備を支援しており、BRT1 号線は開通済、2 号線以降も順次建設が進められている。また世界銀行は MP で提案されたウブンゴ交差点及び BRT フェーズ 2 上に位置する 2 か所立体交差化を、AfDB は渋滞が深刻な市内複数交差点の立体化の F/S 実施を支援。さらに、MP に基づき韓国は新セランダー橋、中国はニエレレ橋の整備を支援してお

り、本計画と併せて MP で提案された交通円滑化の実現に寄与する。

- ⑥ 運営／維持管理体制：事業完成後の運営／維持・管理の年間計画は TANROADS 本部が作成し、ダルエスサラーム州事務所が実施する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

<b>4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用</b>
------------------------------

過去のタンザニアの類似案件の評価等では、渋滞が集中する市街地での工事実施に向け、通行車両や地域住民の安全確保、地域住民の近隣店舗等の円滑な利用のため、施工業者は①交差点内で片側 2 車線の車道と両側に幅 3 メートルの歩道を確保、②高さ制限を超える車両の交差点侵入に備えた衝突防止の門を設置、③交通警察官と交通誘導員を 24 時間体制で配置し交通管理を実施、との工夫を行い、無事故且つ工期の遅延なく完工した。本計画も市街地での工事が想定されるため、上記案件の経験を踏まえ、施工期間中に既存交通に与える影響を最小化する施策を検討する。

以 上

[別添資料] 地図

[別添資料] 写真

地図「ダルエスサラーム市内交差点改良計画」



赤字の交差点が本計画の調査対象箇所。フェーズ1～6はBRTの路線を示す。



出典：グーグルマップ



写真「ダルエスサラーム市内交差点改良計画」



モロッコ交差点の現況



ムウエンゲ交差点の現況



ブグルニ交差点の現況